

【NEWS RELEASE】

2020年10月14日

各 位

株式会社三井住友フィナンシャルグループ

水素社会実現を推進する新団体「水素バリューチェーン推進協議会」
準備委員会への参加について

株式会社三井住友フィナンシャルグループ（執行役社長グループ CEO：太田 純、同社グループを総称して「SMBCグループ」）は、水素社会の構築・拡大に取組む民間企業8社（ ）とともに、水素分野におけるグローバルな連携や水素サプライチェーンの形成を推進する新たな団体「水素バリューチェーン推進協議会」の設立に向けた準備委員会に、事務局として参加致します。本協議会は、12月初旬の団体設立を目指し、取組にご賛同頂ける企業、自治体、団体の皆様の参加を募る予定です。

現在、環境問題においてはCO2排出量削減による地球温暖化の防止が喫緊の課題であり、これを解決するためには、持続可能で低炭素なエネルギーの一つである水素の利用促進が重要な役割を果たすことが期待されます。また、水素分野において日本が世界をリードし続けるためには、水素の社会実装に向けて、様々なステークホルダーの皆様と連携し、水素産業の育成と発展に向けた取組を推進する事が重要となります。

昨今、多くの国々が水素社会実現に向けた取組を加速している中、日本においてもCO2削減に向けて水素の利用促進の可能性や課題が議論されてきました。水素需要拡大には、安価な水素の供給と、水素利用の促進が必要です。新たな団体は、水素社会の構築を加速させるために、水素需要創出、スケールアップ・技術革新によるコスト低減、事業者に対する資金供給、といった3点の課題解決に向けた取組を進めていくことといたしました。

SMBCグループは、協議会での活動通じ、水素社会の実現に向けた取組を金融面からサポートするとともに、今後もお客さまとともに低炭素社会への移行に向けた取組を行ってまいります。

（ ）準備委員会 参画企業（2020年10月14日時点/50音順/＊は事務局）

岩谷産業株式会社＊、ENEOS株式会社、川崎重工業株式会社、関西電力株式会社、株式会社神戸製鋼所、株式会社東芝、トヨタ自動車株式会社＊、株式会社三井住友フィナンシャルグループ＊、三井物産株式会社

以 上

水素社会の実現を推進する 新たな団体「水素バリューチェーン推進協議会」 の設立に向けて

2020年10月14日

水素バリューチェーン推進協議会 準備委員会

水素社会の構築・拡大に取り組む民間企業9社（以下に記載）は、水素分野におけるグローバルな連携や水素サプライチェーンの形成を推進する新たな団体「水素バリューチェーン推進協議会」の準備委員会を立ち上げ、具体的な準備を進めております。地球温暖化対策において中心的な役割を果たす事が期待される水素について、今後も日本が世界をリードし続けるためには、水素の社会実装に向けた革新的な取り組みを進めると同時に、様々なステークホルダーの皆様と連携し、水素産業の育成と発展に向けた取り組みを推進する事が重要となります。そこで、12月初旬の団体設立を目指し、こうした取り組みにご賛同頂ける企業、自治体、団体の皆様の参加を募る予定です。

【新団体設立のための準備委員会参画企業】50音順、事務局企業は 印

岩谷産業株式会社、ENEOS株式会社、川崎重工業株式会社、関西電力株式会社、株式会社神戸製鋼所、株式会社東芝、トヨタ自動車株式会社、株式会社三井住友フィナンシャルグループ、三井物産株式会社

【新団体設立の目的、主な活動内容】

新団体では、既存団体や事業者と協力・協調し、水素バリューチェーンの構築を目指して、活動に取り組んでいくため、事業化、渉外、調査等の機能を準備していく予定です。

水素バリューチェーン構築の為、横断的な取組を行う
水素社会の実現の為、社会実装に向けた動きを加速する
金融機関と連携し、資金供給の仕組みづくりを推進する

【新団体設立の背景】

昨今、多くの国々が水素社会実現に向けた取り組みを加速している中、日本においてもCO2削減に向けて水素の利用促進の可能性や課題が議論されてきました。水素需要拡大には様々な企業が連携し、安価な水素の供給と、水素利用の促進に取り組むことが必要です。上記参画企業は、水素社会構築を加速させるためには、水素需要創出 スケールアップ・技術革新によるコスト低減 事業者に対する資金供給、といった3点の課題解決を目指す横断的な団体が必要と認識し、新団体設立の具体的な検討を開始しました。